

第 24 期日本学術会議 健康・生活科学委員会（第 4 回）議事録

I 開催日時：2018 年 10 月 3 日(水) 16:30 ~17:40

II 場所：日本学術会議 5-D 会議室

III 出欠

出席：、片田範子、秋葉澄伯、小川宣子、熊谷日登美、小松浩子、多久和典子、

寶金清博、宮地元彦、安村誠司（敬称略）

欠席者：神谷研二、田辺新一（敬称略）

IV 議事：

1) 連続公開シンポジウム「食・生活から健康を考える」

- 参加委員から、多くの聴衆（250 名余）を得て成功裏に終了した旨、報告された。

2) 委員会の今後の活動について

- SDGs の視点に立った提言の発出やシンポジウムの開催を検討してはいかがかとの意見が出された。
- シンポジウム「これからのいのちと健康と生活をまもる」メインテーマは継承する。
- 健康・スポーツ分科会から、東京オリパラ終了後の 9 月 9 日～11 日の日程で、国際会議「(仮題)」を開催することとなったため、日本学術会議に講演依頼、ならびにシンポジウムの共催を依頼する予定であることが報告された。

3) マスタープラン（MP2020）について

- 第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(MP2020)の策定方針(案)、ならびに 11 月に公募開始、1～2 月応募締め切りのスケジュール（仮）が報告されたことに基づき、各分科会に提案の準備を早めにお知らせすることとした。
- 健康・生活委員会は提出母体とはならなくても第二部関連の課題が出されることの重要性について委員会では合意された。
- 第 3 回委員会において議論された健康・生活委員会の活動の方向性、「世界への貢献を目指す。ことに、少子高齢化がすすむこれからの日本社会に向けた貢献を目指す。」に準じたテーマ設定、ならびに日本学術会議全体で取り組んでいる SDGs や Society5.0 を見据えたテーマ設定が望ましいとの意見が示された。
- 提案に関連するワードとして、介護ロボット、ビッグデータ・AI 活用、大規模疫学研究、MCI・認知症、人口減少社会対策などが挙げられた。

4) その他

- 3月に予定していた第5回委員会を、集合会議ではなくメールもしくはスカイプや zoom 等を用いた会議とする。

以上 文責 宮地